

## 次期会長候補者マニフェストの掲載と投票のお願い

第 32 期役員推薦委員会が 8 月 3 日に開催されました。支部から推薦された 5 名の候補者に、推薦委員会委員から一次投票により推薦された 2 名を加えた合計 7 名を一次候補者とし、二次投票を行いました。二次投票結果から、上位 6 名を二次候補者として選定いたしました。さらに、二次候補者 6 名から、三次投票により得票数の上位 3 名の会長候補者を選定し、この 3 名が第 32 期会長候補者として推薦されました。

この結果にもとづいて、3 名の会長候補者のマニフェストを氏名の五十音順に掲載いたしましたので、ご一読のうえ是非投票をしていただきますようお願いいたします。なお、候補者氏名の下には、所属および現職・生年・最終学歴・学会における役職を記載しております。

投票は、原則として正会員による Web 投票で実施します。Web 投票を行うには、会員番号およびパスワードが必要となります。下記 URL に会員番号、パスワードの確認方法および投票手順を掲載いたしましたので、事前に会員番号およびパスワードをご確認のうえ、投票をしていただきますようお願いいたします。

URL : <http://main.spsj.or.jp/>

### Web による投票

投票期間：平成 25 年 11 月 8 日～11 月 22 日

E メールアドレスをおもちでない正会員の方のため、事前に送付いたしました投票用紙を用いた郵便での投票も受け付けます。下記の郵便投票期間に是非投票をしていただきますようお願いいたします。

### 郵送による投票

投票期間：平成 25 年 11 月 8 日～11 月 17 日（消印有効）

## 高田十志和 ( タカタ トシカズ )

Toshikazu Takata

東京工業大学大学院理工学研究科教授・1953 年生・昭和  
51 年筑波大学大学院化学研究科博士課程修了  
高分子学会副会長・元関東支部長

Professor, Tokyo Institute of Technology, Graduate School of  
Science and Engineering, Tokyo Institute of Technology,  
Born in 1953

Degree: Ph.D. (1981, Tsukuba University)

Vice President of The Society of Polymer Science, Japan



この度高分子学会の会長候補者の一人に選んでいただき、たいへん光栄に存じます。その一方で、高分子学会の歴史と伝統を考えますと、身が引き締まる思いが致します。高分子学会は学術研究、研究開発に携わる研究者、技術者のよりどころ、知の拠点であります。会員の皆様にその価値を十分感じて頂けるよう、以下の 4 つの取組みを重点的に推進します。

### 1．高分子分野の拡がりと先進的・先導的取り組みの実践

基礎科学に加えて、ブダペスト宣言の「平和、開発そして社会のための科学」に対応すべく、四五行事等において未来志向のテーマ、境界領域、技術関連のテーマといった新セッションを設定し、それを支える研究会を活性化します。また、異分野融合や他学会との交流により高分子が関与する世界の広がりを積極的に取り込みます。

### 2．国際連携・国際交流の強化、海外人材育成の推進

欧米をはじめとする各国と強固な関係・連携を築くとともに、高分子分野最大の学会としてグローバルな貢献と情報発信を行います。また、世界の高分子素材の物流中心となる東アジア、東南アジア諸国の高分子研究と学会活動活性化のための支援や、優秀なアジア人材の育成を推進します。

### 3．学会の活性化と存在感の向上

すべての会員が、知の拠点としての学会に自信と誇りを持てるようにします。学会ビジョン 2010 に加えて世界をリードする高分子研究の行動プランを立て、国際・国内会議の活性化を図ります。支部を含む学会の賞や企業冠賞、学生・企業正会員に対する賞を充実します。またフェロー会議を創設し、高い知識、技能を活かした学会、社会貢献を進めます。

### 4．効率的な学会運営と多様なサービスの実現

学会業務と会誌「高分子」のIT化を完成させるとともに、スマートでスリムな学会運営を実行します。また、Webinar の拡充、四五行事でのランチョンセミナーの実践、さらには出前講義などの啓蒙・公益的な活動も行います。

## 高原 淳 (タカハラ アツシ)

Atsushi Takahara

九州大学先導物質化学研究所・主幹教授

1955年生・九州大学大学院工学研究科博士課程修了

高分子学会元副会長

Professor, Institute for Materials Chemistry and Engineering, Kyushu University, Degree: D. Eng. (Kyushu University)

Former Vice President of the Society of Polymer Science, Japan



産官学のバランスを考慮した学会の活性化を試み、国際的な存在感、ひいては、リーダーシップを発揮するため、以下の施策を実施します。

四大大事はそれぞれの特色を重視した運営を進めます。年次大会、討論会では国際化の推進、特に討論会では日本の強みである基礎を中心とした特定テーマの強化を行います。夏季大学およびポリマー材料フォーラムは産官学連携における情報交換の場としての位置づけを明確にします。夏季大学では現在の社会情勢と高分子科学の進歩に対応するため基礎と最先端のトピックスを並立させ、基礎科学に立脚した機能発現を意識することで、着実な高分子科学技術の伸展を目指した高分子学会の独自性が発揮できる行事にします。産学連携に関しては、「高分子同友会」との連携を継続・強化します。

新しい施策として高分子科学・工学と関連した国内・外の学会等との連携企画を行い異分野融合、国際化に対応します。また、若手主体の国際研究交流の支援を行い、日本の国際的な存在感の再構築を目指します。

ボトムアップ型の学会運営を強化するため、支部および研究会活動の活性化を積極的に支援します。また、インターネットを利用した TV 会議システムを活用して支部あるいは研究会と代表理事・業務執行理事の議論を通して意見を集約し、速やかに学会運営に反映させるよう努力します。

基礎教育を軸に置いた Webinar を継続します。柔軟な発想や広い視野に立つコミュニケーション力を有する次世代技術者・研究者育成のために、最新の成果を国際発信する PodCast の導入、ソーシャルネットワークの積極的活用、広報活動の推進を行います。

高分子関連の大型プロジェクトの継続実施は高分子科学の発展と研究者育成、さらには日本の強みである素材産業の育成のために極めて重要です。プロジェクト化などの提案を支援するための研究戦略委員会を設置・強化します。

## 中條 善樹 (チュウジョウ ヨシキ) Yoshiki Chujo

京都大学大学院工学研究科教授  
1952年生・京都大学大学院工学研究科博士課程修了  
高分子学会業務執行理事  
Professor, Graduate School of Engineering,  
Kyoto University  
Born in 1952, Ph.D. (1980, Kyoto University)  
Executive Director, The Society of Polymer Science, Japan



### 会員の皆様とともに「高分子力」で日本の未来を元気に

高分子分野で世界最大の科学者・技術者の集まりである伝統ある高分子学会の会長候補者の一人に選んで頂き、光栄に存じます。先達がこれまでに築いて来られたものを大切にするとともに、軌道に乗った公益法人制度を更に活かして学会運営に取り組みます。チームジャパンとして一丸となり 2020 年の東京五輪の招致に成功したように、我々高分子学会も会員の皆様とともに、長期戦略に立って「高分子力」で日本を元気にしていけるよう、四大大行事の充実はもちろんのこと、更に次の諸点を実行していきたいと考えています。

楽しんで誇れる高分子学会に 会員が楽しく参加できる学会にしたいと思います。**学会参加費補助制度の新設、若手への授賞制度の拡充、つい見たくなるホームページ・会誌**を目指した更なる工夫、**会員が便利に使えるIT化**の促進、等を強力に進めていきます。

世界をリードする学会に 世界の高分子科学分野での日本のこれまでの貢献は非常に大きいものがあります。これを更に飛躍させ、世界のリーダー学会となるために力を尽くします。**国内外の他学会との合同シンポジウム開催、予稿集や発表資料の英語化、ITの戦略的活用等**、国際交流・貢献を積極的に進め、世界に向けた発信力の向上に努めます。

将来を託す元気な産官学人材の育成 「高分子に夢を抱く」若手研究者・技術者を育てることは学会の責務です。高分子同友会との連携を密にとりながら、**産官学連携委員会**を新たに立ち上げ、その互惠関係を強化する **Webinar 等の教育プログラム**を充実させます。

未来の方向を示すロードマップの作成 高分子学会として何が期待され、求められているかを具体的にまとめ、腰を据えた長期ビジョンに立った**ロードマップ**を作成します。将来に向けた夢のサイエンス・高分子材料の実現のためにも極めて重要であると考えます。